

ICCAIAボード会議及び国際民間航空機関(ICAO)

第42回総会報告

ICCAIAボード会議が2025年9月22日にカナダのモントリオールで開催され、当会からは専務理事と小職が参加したので、その報告をおこなう。あわせて9月23日から開催されたICAO第42回総会の概要を報告する。

1. ICCAIAボード会議

会議は議決権を持つ、ASD（欧州）、AIA（米国）、AIAC（カナダ）、AIAB（ブラジル）、それにSJAC（日本）の5団体の加えて、アソシエイトメンバーのFEMIA（メキシコ）とCSAA（中国）も参加して開催された。AAIS（シンガポール）とMAIA（マレーシア）は欠席であった。

現在のICCAIAの議長であるASDの専務理

事の交代があり、新任のCamille Grand 氏の挨拶から会議は始まった。同氏はフランス政府において国防省や外務省に勤務され、その後に北大西洋条約機構（NATO）に勤務されている。

当日の議事についてはアジェンダに沿って説明する。



会議参加者による集合写真

番号	件名(アジェンダ項目)	内 容
1	Welcome	Jan Pie氏による議事開始の宣言がおこなわれた。
2	Approval of the Agenda and the Minutes (Board Meeting, 27 Mar. 2025)	前回のボード会議 (3/27開催) の議事録が承認された。
3	Introduction of Mr. Camille Grand, ASD DG and new Chair of the ICCAIA Board	Camille Grand氏の紹介とICCAIAの議長への就任。
4	Presentation and Exchange with IACAC Secretariat, UK Government (TBC)	IACAC (International Aviation Climate Ambition Coalition) によるプレゼンテーション。COP26(2021年開催)を契機に英国が主導し作られた、Aviationにおける気候対策を扱う国際的な協議体。日本政府も参加済。同団体はAviationに関連する団体にも門戸を開いておりICCAIAも参加することとなった。
5	2024-2025 Financial Results Mike Mueller	財務担当のAIAC専務理事(Mueller氏)による状況説明。2025年3月開催のICCAIA Conferenceでのスポンサーからの収入もあり、若干の黒字を確保したとの説明がおこなわれた。
6	ICCAIA Sustainable Budget Mike Mueller, ICCAIA Secretariat	Mueller氏とICCAIA事務局より、ICCAIAモントリオールの機能拡大にともなう支出の増加が見込まれており、自治体からの立上げ支援金がなくなる2026年度以降は赤字が予想されることが説明された。ボードとしては、まずはICCAIA 5-year strategy の見直しに取り組み、支出の抑制を検討していくこととした。
7	ICCAIA Budget 2025-2026 Mike Mueller	Mueller氏により、新規加盟メンバーからの会費収入を織り込むことで、若干の黒字を確保できる見込みであるとの説明がおこなわれた。
8	Proposal for New Categories of Membership	ICCAIA事務局 (Alexe Paré氏) により、メンバーのカテゴリーにパートナー・アソシエーションや個人会員などを追加し、ICCAIA会員の裾野を広げる取り組みの説明がおこなわれた。
9	Recruiting new ICCAIA Members – Singapore Airshow Opportunity	ICCAIA事務局 (Alexe Paré氏) より、新規メンバー募集の活動としてシンガポールエアショー (2026年2月) でセミナーを開く計画があることが説明された。

番号	件名(アジェンダ項目)	内 容
10	Report on Board Request for Aerospace/Oil CEO Forum	ICCAIA事務局(Dan Carnelly氏)より、本件をおこなうには、ふさわしいタイミングではないとして、取組みを中断することが報告された。
11	Report on Final Steps of Expansion	ICCAIA事務局(Dan Carnelly & Nina Brook)より、2026年には常勤5名体制にしていくために採用を続けていくこと、地元自治体からの立上げ支援金は2026年3月が最終となることが説明された。
12	ICAO General Assembly	ICCAIA事務局より、ICCAIAのICAO総会における活動の概要が説明された。 <ul style="list-style-type: none"> 3件のWorking Paper(W/P)を提出すること。 他団体が提出する7件のW/Pについて支持を表明する計画であること。 ICCAIAからの代表団は約90名の登録があり、加盟国や他団体の発表に対応していくこと。 (注:W/Pの詳細は次章のICAO第42回総会報告に記載。)
13	Report on Canada/Quebec Immigration Issues	ICCAIA事務局(Dan Carnelly氏)より、ケベック州政府の方針として、外国人労働者のビザ獲得資格を厳しいものにするのが示されており、今後の人材確保への影響がでくるとの情報提供があった。
14	Any Other Business	集合写真を撮影して終了。

2. ICAO第42回総会について

(1) 概要

同総会は2025年9月23日(火)から10月3日(金)にかけて、ICAO本部(カナダ・モントリオール)で開催され、ICAOの次期活動方針等が承認されたほか、理事国選挙において引き続き日本が理事国として選出された。

会議には総勢約3,000人の参加者があり、ICCAIAからはW/Pの発表や会議での動向を確認するために総勢90名が参加登録をおこなった。また、192か国の加盟国が参加し、今までで最大の総会となった。

総会の議事においては、中野国土交通大臣が代表演説を行い、航空安全・保安、航空管制、環境、人材育成、技術支援等の各分野に

おける日本の取組やICAOへの貢献について加盟国へのアピールが行われた。

参加者によるW/Pへの討議などを経て、航空安全、航空管制などの分野における取組の継続的な実施や深化を図るため、ICAOが策定している、「世界航空安全計画(GASP)」及び「世界航空交通計画(GANP)」について、次期計画が承認された。

また、航空保安においては、世界的なテロ等の航空に対する脅威への対応や航空保安の強化を推進するため、2030年の目標として更新された「世界航空保安計画(GASeP)第2版」に基づき、各締約国が目標達成に向けた取組を奨励することが改めて決議された。



ICAO第42回総会 会議場

(2) ICCAIAが提出した3件のWorking Paper (W/P) について

- Halon replacement for Cargo Compartment fire suppression. (WP-74)
(貨物室消火用ハロンの代替材)

内容は、ハロンの代替品が不足しているため、2つの措置が必要とする提案である。短期的にはハロンの使用を免除すること、そして代替品の開発に時間をかけるためにICAO基準を変更することを求めるものである。総会の結論は、他の団体などからの提案も踏まえ、ハロンの持続可能な有効使用期限の改訂の提案書を作成すること（決議42-25-1）となった。

- Cybersecurity and Digital Risks. (WP-165)
(サイバーセキュリティとデジタルリスク)

内容は、ICAO 内および各国内のデジタルリスクのガバナンスと管理を強化するとの提案である。会場での賛同を得た。

- Mitigating GNSS Vulnerabilities in Aviation. (WP-108)
(航空における衛星測位システムの脆弱性を軽減)

内容は、衛星測位システムの成り済ましと妨害を考慮した、回復力と運用継続性を強化するための提案である。会場での賛同を得た。

(GNSS : Global Navigation Satellite System)

(3) ICCAIAが提案したInformation Paperは以下である。

- Efforts Of Aircraft Manufacturers On Making Air Travel Accessible to Persons With Disabilities (障がい者の航空旅行の利便性向上に向けた航空機メーカーの取り組み)
- Standards for eVTOL aircraft (eVTOL航空機の規格)
- Use of Artificial Intelligence in Aviation (AIのAviationでの使用)
- Standardization Roadmap and support for LTAG (標準化ロードマップとLTAGのサポート)

(4) ICCAIA が支持を表明した他団体のW/Pは以下である。

- Meeting energy demands for the decarbonization of airports

(提案者ACI：Airports Council International / 国際空港評議会)

- Resilience of the workforce, Next Generation of Aviation Professionals
(提案者GAAST：Global Aviation & Aerospace Skills Taskforce)
- Implementation of ICAO Policies on Taxation
(提案者IATA：International Air Transport Association / 国際航空運送協会)
- Integrated airspace
(提案者CANSO：Civil Air Navigation Services Organization：民間航空交通管制業務機構)
- Accident investigation reporting (IATA)
(提案者IATA：International Air Transport Association / 国際航空運送協会)
- Industry views on Aviation Climate Action
(提案者ATAG：Air Transport Action Group / 航空輸送行動グループ)

3. 所感

ICCAIAボード会議では、団体としての機能拡張と加盟団体（メンバーシップ）の拡大についての議論が行われた。第42回ICAO総会においては、ICCAIAと同様にICAOにおいてオブザーバーの地位を持つIATA（国際航空運送協会）は14件のW/Pを提出し、自らの主張への賛同を募っている。このように、民間航空に係る諸団体は、ICAOに対してのアプローチを強めており、ICCAIAとしてもICAOの場において産業界の声を届けるために、団体としての裾野の拡大は課題である。ICCAIAが産業界の団体として、限られたリソースのなかでICAOの場においてどのように役割を実現していくのかについて、今後もICCAIAの場などで議論していきたい。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部部長 羽中田 実〕